

日常の水意識／東京・大阪・中京圏

今年6月、利根川水系ダムの貯水率低下により、東京を含む関東(1都5県)では、同16日より10%の取水制限が実施されました。ここ数年の「家庭における水の使い方」は節水意識の低下が止まらない状況の中、今年の調査を実施した時には取水制限が危惧され、節水の呼びかけも始まった時期でしたが、その数値に変化は見られたのでしょうか。

今回は、本調査を開始した1995年以降の節水意識の変化などにも着目しました。

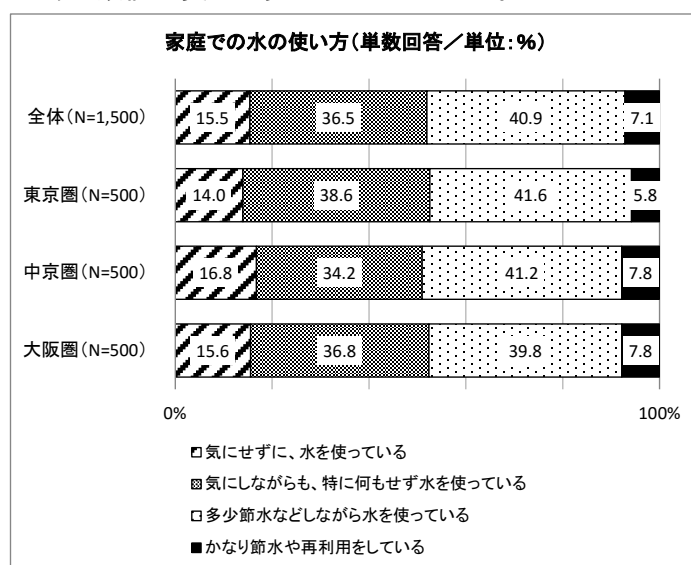
Q.水の使い方は？ (4択)

◇依然として“節水していない人”が5割超

東京圏での節水の呼びかけにも、節水意識向上せず

今年の結果は、「節水・再利用を気にしながらも、何もせず水を使っている」人(36.5%)が昨年から4.4ポイント減少したものの、「節水・再利用は気にせず水を使っている」人(15.5%)が2.4ポイント増加し、この両者を合計した“節水していない人”は昨年から微減の52.0%も、依然として5割を超えました。

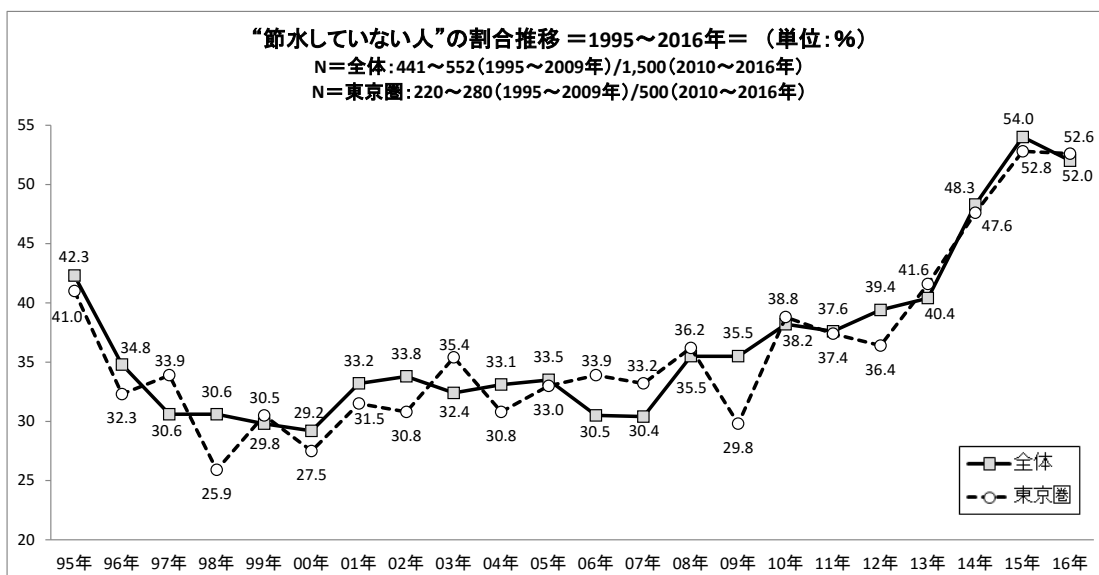
東京圏では、“節水していない人”が52.6%で昨年(52.8%)とほぼ変わらず、節水の呼びかけによる節水意識の向上を思わせるような数値の変化は見られませんでした。



調査初年度からの“節水していない人”の推移を見てみると、全体の数値は2000年頃から緩やかな右肩上がりの傾向にあり、2013年以降で上昇率が高くなっていることがわかります。

東京圏では1995年以降、96年、97年、01年、12年に取水制限があったものの、節水意識との明らかな相関はみられませんでした。

一方気になるのが、2008年以降みられる“節水していない人”の上昇トレンドです。その理由は現段階ではわかりませんが、当センターとして今後、深掘りしていきたいテーマと捉えています。



※2009年以前はFAX調査。